

「このゴミは収集できません」 滝沢秀一 著 白夜書房

冬休みに入ろうとしていた頃、インターネットのページに「お笑い芸人が書いた本ベストセラー」との記事があり、どんなものかと思い手に取りました。著者はお笑いコンビ「マシンガンズ」の人です。挿絵が多く読みやすいため一日で読める本です。お笑い芸人らしく、ユーモア溢れる文章が至る所にちりばめられており、ある意味「ウケる」本ですが、その一方でゴミについて深く考えさせられる本でもあります。実は私とゴミとは何かしらの縁がありまして、学生当時、就職面接の準備のためにとりあえず読んだ本が「ごみから地球を考える」という本であったり、現在の研究テーマの一つに金属スクラップのリサイクルに関するものがあったり、家に帰れば小学生の息子・娘から「あっち行け、このゴミが〜っ!」と言われ中指を立てられたりと、ゴミと縁のある人生を歩んでいます。

さて、本書の中身はと言いますと、ゴミ清掃員を副業でやっている著者が、ゴミ回収車で集積所をまわっている際に見たあり得ない（非日常的な）光景を面白おかしく紹介するとともに、物質的に豊かな社会が直面しているゴミ問題を、ゴミ清掃業者の目線で考察しています。昨年、スターバックスやマクドナルドはプラスチック製ストローの提供をやめると発表しましたし、ゴミの埋め立て地の問題やゴミによる海洋汚染の問題は、相変わらず世間を賑わせています。その解決のためには、ゴミそのものの排出量を下げることが手っ取り早いわけですが、ゴミの分別（つまりはリサイクル）も有効な手段です。本書を読めばその重要さがよく分かります。学生の皆さんはゴミの分別をきちんとしていますか？本校のゴミ箱を見る限り酷い有様です。清掃業者のお姉様方（たまにオジサマもいる）が大変な思いをしているのですよ。本書を読めばゴミ清掃がいかにハードワークであるか分かります。先日も、大量の段ボールや雑誌が縛られずにゴミ箱横に放置されていたようです。ゴミを回収する業者さんの気持ちを推し量ったら、そんな雑なことできません。付度しようよ。

「本書を読んで『ちょっとだけゴミについて考えてみよう』と思ってくれる大人が増えれば」と著者は語っています。技術者にとってもゴミについて考えることは大切で、昨今では製品の廃棄まで考えた設計が求められます。いかに高パフォーマンスな製品を作ったとしても、廃棄時に地球に与えるダメージが大きかったら、世間には受け入れられない時代が到来しています。

※2019年2月25日現在、この本は本校図書館に収められていませんので悪しからず。